

■令和5年度 第1回 大和市地域公共交通協議会幹事会 会議録（要約）

日 時：令和5年7月21日（金） 14時00分～

会 場：大和市生涯学習センター 606 会議室

出席者：別紙の通り

傍聴者：なし

1. 開会

2. 議題

（1）大和市総合交通施策の進行管理について

事務局より、大和市総合交通施策の進行管理シート（展開施策、モニタリング指標）の内容を、資料に沿って説明。

—主な意見、質疑応答—

（幹事長）

- ・全国的に少子高齢化が進んできている中、大和市は未だ人口増加が続いている。ただ、市の北部は増加傾向にあるが、南部は人口が減り始めており、移動に困っているという話も聞こえてくる。市長が変わり、移動しやすい環境づくりを政策に入れていることや、近隣市との広域連携を検討しているなど、市として公共交通に更に力を入れていくことになると考えられる。是非、ご協力をいただきたい。
事務局から数字に関する説明を受けたが、それだけでは評価しづらいと考えるので、事業者の皆様より補足や今後の事業展開など、お話を伺いたい。

（小田急電鉄）

- ・乗降客数について、コロナ前に比べて10～15%減、定期券利用者は20%減であり、戻らない可能性も考えつつ、対応については現在検討中。一昨年、子ども運賃50円や小田急おでかけポイントの実施を始め、MaaSに関連するアプリを導入することで、交通の連携による利用促進に努めている。

（東急電鉄）

- ・コロナ前と比較し、乗降客数が1割減、定期券利用者は2割減となっており、新しい生活様式の定着に伴い、以前の数字には戻らないと見込んでいる。対策として、インバウンド対応や沿線居住者へのきめ細かな対応を進め、また、今年の夏から乗車券のクレジットカードタッチ決済やQRコードの活用を開始し、柔軟なチケットサービスに努めつつ、これまでも高齢者向け乗り放題パスの発売や小児向けの一日乗車券など、利用促進を実施している。

(相模鉄道)

- ・傾向は同様で、定期券利用者はマイナス１５～２０％であったが、３月１８日の東急直通線の開通効果もあり、足元では、マイナス幅は減少している。しかし、相鉄本線利用者から「乗れなくなった」「到着が遅くなった」などのご意見も頂くようになった。簡単にダイヤ改正などは行えないが、より便利だと感じていただけるよう、工夫を続けていく。また、相鉄グループにおいてグループポイントの創設など、利用促進につながるような取り組みを検討している。

(幹事長)

- ・先日テレビで、小田急電鉄と東武鉄道の取り組みが取り上げられていた。東急電鉄でも大井町線の優良座席指定サービスを展開していたり、相模鉄道も東急電鉄との相互乗り入れが開始したりするなど、利用者増のための取り組みが進んでいる。
- ・続いて、路線バスの状況についてお伺いしたい。

(神奈川中央交通)

- ・当社もコロナ前と比べて２割弱の減少となっている。７月から運賃値上げを実施したところであり、それが乗車人員数に及ぼす影響は今後把握に努める。利用者増に向けて、オフピークチケットを開始し、平日９時～１７時と土日終日を定額で乗り放題とするサービスを開始した。在宅ワークの定着による利用者の減少は、このまま続くと考えている。

(相鉄バス)

- ・乗車人員は、１５～２０％減少しているが、その内訳が若干違い、コロナ期間中に「バス得」という割引サービスを終了したことで、定期以外の方が減少しており、定期利用者はおおむねコロナ前の状況に戻ってきている。相模鉄道とのグループポイントを始め、普段利用していない方の利用を促すための割引等の企画を検討している。

(幹事長)

- ・市民から「家の近くにコミバスを走らせてほしい」という要望が来るが、その多くは路線バスが近くを運行しているケースである。改めて路線バスについての周知を行うなど、市が協力できる部分があるかもしれない。ただ、運賃の違いは否めないため、何かしらの施策を検討する必要がある。
- ・続いて、タクシーの状況についてお伺いしたい。

(神奈川県タクシー協会)

- ・資料の利用者実績は増えているが、実感がわからない。高座渋谷や桜ヶ丘周辺のタクシーが手薄になってしまっているとの意見もあるが、中央林間や大和ほど利用頻度が高くないため、利益につながりにくいことが要因であり、どのようにカバーするのか、カバーしていただけるのか、検討や調整が必要だと考える。需要に対して不足している供給への対応は検討している。

(神奈中タクシー)

- ・やまとんGOの利用者について、今年度は昨年度同月比で1割程度増加しており、コミバス利用者は平時に近付いているように感じる。一方でタクシーは、県全体でコロナ前の85%程度、大和・座間では90%程度まで戻ってきている。当社としては、羽田までの空港定額タクシーの再開やコロナ終息による夜間の利用者の増加もあり、令和3年度に比べて4年度は増加しているものと考えている。

(幹事長)

- ・市民から、タクシーを呼んでもなかなか来ないという意見が聞こえるが、人員を夜間に回しているということか。

(神奈川県タクシー協会)

- ・そのとおりである。基本的に人員配置はオーダーの数に起因するものだが、北部から深見台あたりまでは多く、南部は利益につながりにくいため、どうしても台数の確保が難しい。

(神奈中タクシー)

- ・需要に応えるためには乗務員の確保が必要となるが、神奈川県全体のタクシー運転者数はコロナ前の2019年に比べて2割減、当社は3割減となってしまった。雇用調整助成金により、休んでいる間も収入が確保できてしまい、戻ってこない乗務員が多く生じた。需要が戻ったとしても、全てに応えることができず、利用者の待ち時間に影響している。

(幹事長)

- ・利用者の増加に向け、メディアの利用も含めて市としても検討したい。
- ・続いて、福祉有償運送について伺いたい。

(ケアビーくる)

- ・利用者数は横ばいの状況だが、新規入会が年に120名程度いて、特に桜ヶ丘あたりの需要が増加している。利用者の話を聞くと、タクシーがなかなか来ないため福祉有償運送を利用しているとのことで、今日お話を聞くまでは、もっとタクシーを増やしてあげてほしいと考えていたが、簡単ではないことが理解できた。
- ・人員確保については、大和建設業組合からの助成金を使った施策の検討を進めている。また、定年を75歳とすることで長く続けていただくなど、特に男性運転手の確保を進めている。

(幹事長)

- ・公共交通の利用者増加は街のにぎわいにもつながるため、今後も各団体の課題や取り組みについて意見を出し合い、少しでも良い方向に向かうよう、この幹事会を利用して欲しい。
- ・東急電鉄で行っている、通勤電車で座席指定ができるとのことだが、路線バス等で実施する可能性はあるのか。

(相模鉄道)

- ・過去に東急バスが、追加料金で座席指定していたと記憶している。

(東急電鉄)

- ・東急(株)がMaaS部門を統括しており、東急バスと連携して田園都市線区間でオフィスワークしながら通勤できるバスを試行していたが、現在は運行していない。
- ・当社が実施している大井町駅―長津田駅間のQシートは好評だが、特別な運行をする交通は、まとまった距離がないと需要に結びつかない考える。

(幹事長)

- ・公共交通の各社の取り組みは多岐にわたるが、乗降者数を増やすきっかけ作りや周知など、役に立つならば市を上手く利用していただきたい。

(相模鉄道)

- ・近年、本厚木が住みやすいまちで1位となり、また、二俣川駅周辺やさらに以西の泉区も居住環境と通勤環境の良好さをアピールしているなど、都心で働き郊外に住むような環境が人気であると感じる。当社が都心に直通運転をおこなったのも、そのような方々に沿線に住んでいただき、鉄道を利用していただくことを目的としている。海老名市も交通環境が整ってきて地価が上昇しており、大和市のようにどこからでも都心に行ける環境があれば、もっと注目を集めることができると考える。

(幹事長)

- ・大和市も交通利便性は高いと認識されており、人口も増加を続けているが、南部の人口減少が始まっている。市全体のまちづくりを検討する中で、移動のしやすさの充実について事業者の皆様の力をお借りしたい。

(事務局)

- ・コミバスについて、やまとんGOのICカード利用開始やルート等の再編について検討が必要であると考えている。持続可能な運行について、引き続きご協力をいただきたい。

3. その他（報告・連絡事項）

- (1) 地域公共交通協議会の開催について
- (2) 令和6年度の「のろっと」20周年記念イベントについて

(事務局)

- ・のろっとの本格運行開始から20周年を迎えるため、イベントを実施したいと考えている。可能であれば、コミバスだけでなく公共交通の啓発や利用促進として、路線バスやタクシーの展示、マスコットキャラクターのイベント等、交通事業者の皆様と連携して開催したい。
- ・各事業者が実施したイベントや事例など、何かノウハウがあれば、意見票に自由にご記入いただき、議題と併せてご提供いただきたい。

4. 閉 会

以上